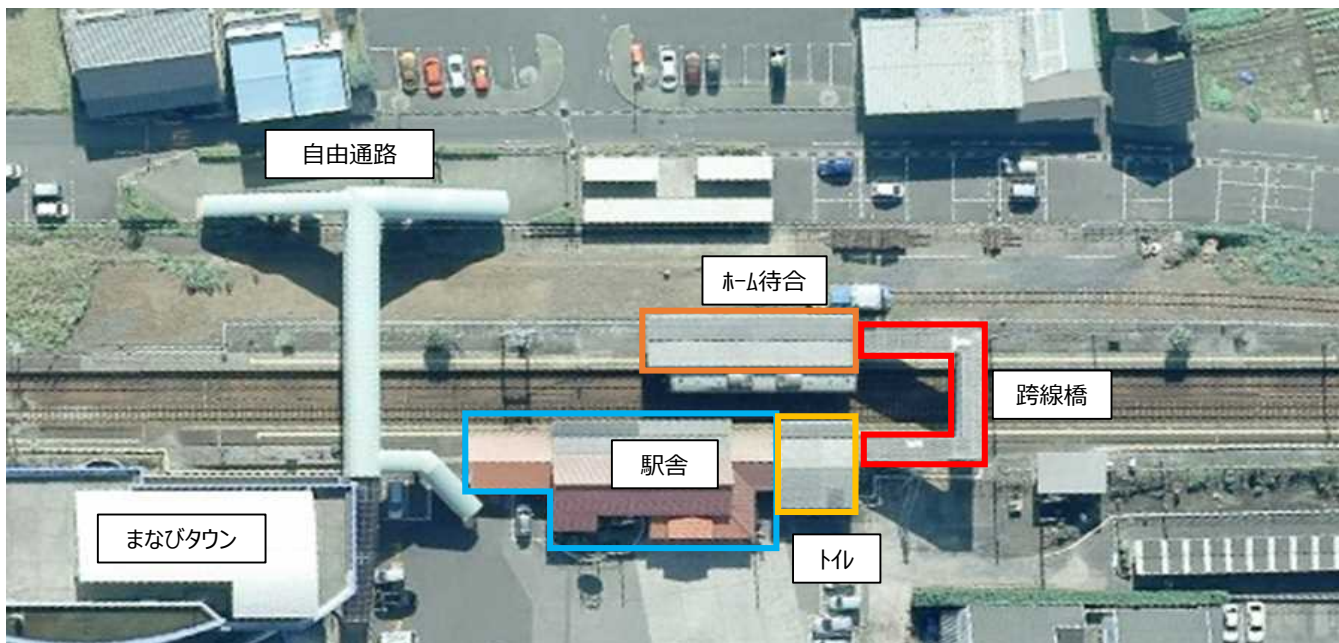


浦安駅の整備に関する説明会

2024年3月26日（火） 19時～
まなびタウンとうはく 研修室

企画政策課

浦安駅の現状



駅諸元	
種別	無人駅
乗降人員	526人/日(2022年)
ホーム	2面2線
築年数	築90年(1934年完成)

駅舎活用の検討結果
※浦安・赤碕駅とも同様の状況

- ・ 築90年の木造建築であり、建築年数を考慮すると近い将来に大規模修繕・解体工事が必要となる。
- ・ ホーム上のスレート屋根、駅舎内部の天井にはアスベストを含んだ部材が使用されており、修繕・解体に当たっては対策費用が生じる。

<概算費用>

- ①活用に係る改修費用 22,660千円
- ②老朽化の修繕対応 都度必要
- ③解体費用 18,500千円

- ・ 文化財としての価値は見込めない。

JRより駅舎を譲り受けての活用を検討したが、困難であるとの結論

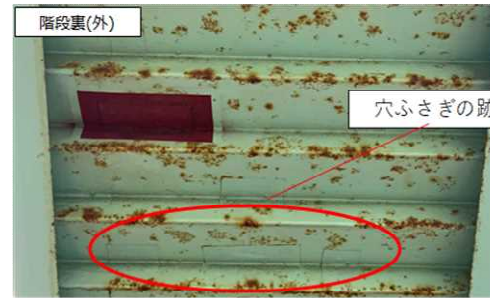
跨線橋の劣化が著しく対応が急務

2023年8月 JR西日本による説明

劣化状況写真（JR西日本提供） 「5」：使用停止、撤去が必要な状態 「4」：安全に使用できる中で劣化が一番ひどい状態



劣化程度：4
状態：全体的に錆が発生し、構造の支えとなる部分やボルト部分に腐食が進んでいる



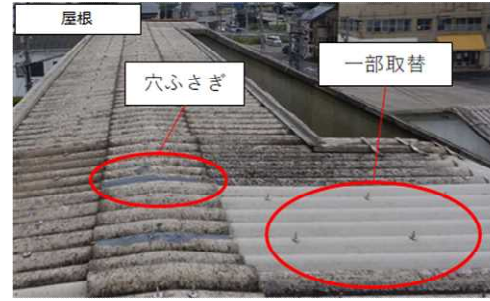
劣化程度：4
状態：全体的に錆が発生し腐食しているため、穴をふさぎ塗装している



劣化程度：5（銅板貼り付け前）
状態：元の板に穴が開いているため、銅鋼板を貼り付け



劣化程度：4～5（番線対応前）
状態：屋根を支えている鉄骨の腐食および鉄骨と屋根を止めるフックボルトの腐食がすすみ破断しているため、一部番線で固定している



劣化程度：5（スレート交換前）
状態：スレートが反り亀裂が入っている箇所について、スレートの交換や穴をふさぐなどの対応をしている



劣化程度：4
状態：欄木に錆が発生し腐食が進行し、部材欠損

跨線橋の劣化状況

- 海風の影響もあり、跨線橋全体に錆による腐食が拡大
- 浦安駅の跨線橋の劣化度は、社内基準で5段階の「4」に該当
- JR西日本山陰支社が管轄する山陰エリアの跨線橋で最も劣化している状態にあり、利用者の安全を確保するため、早急な対応が必要

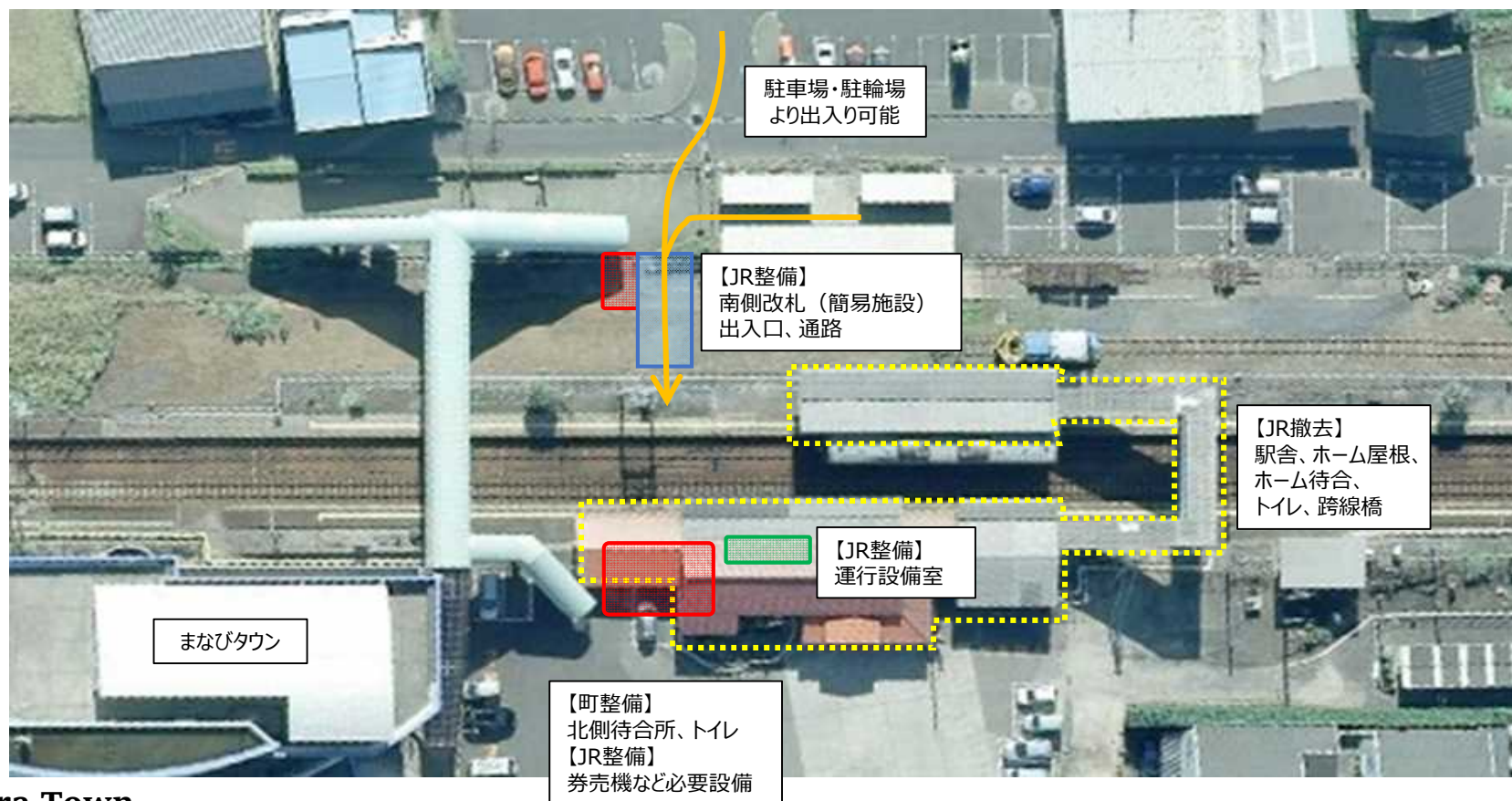
浦安駅の対応を先行

- 跨線橋の腐食範囲が広く、また構造を支える鉄骨部分の腐食が進むなど、修繕での対応が限界となっている。
- JR全体で特に人的施工能力の継続的な確保が困難な状況が見込まれる。
- このままでは、台風などで被害が生じた際に跨線橋の使用を中止する事態も想定されるため、現段階で対応すべき事案と判断した。
- 跨線橋を撤去するにあたっては、町の自由通路を活用したい。
- 浦安駅は、JRの方針として駅舎簡素化の対象となっており、撤去するにあたっては、跨線橋だけでなく駅舎、ホーム屋根、トイレもあわせて撤去する。



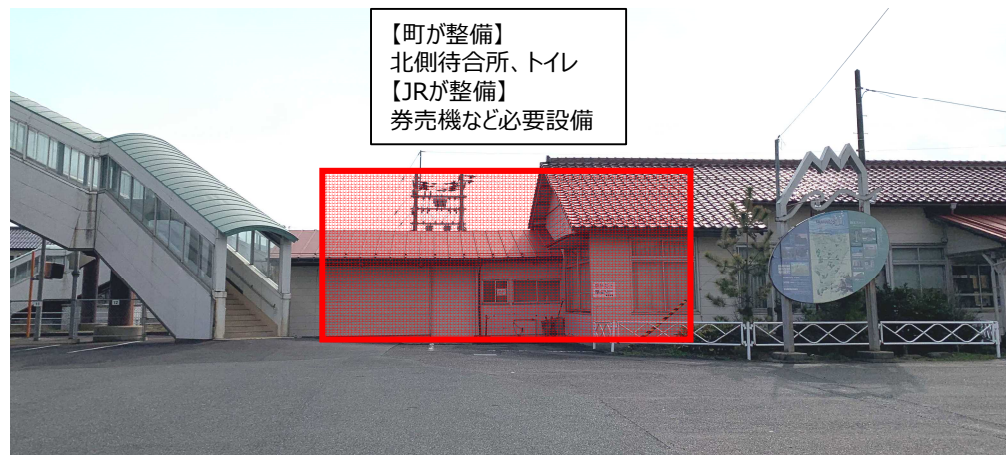
浦安駅の整備概要

- ① JRにより既存施設（駅舎、ホーム屋根、ホーム待合、トイレ、跨線橋）を撤去する。
- ② 浦安駅の南北に出入口を設置、両側からホームに進入可能とする。この際、北側の待合所は町が整備し、南側の改札はJRが整備する。
- ③ 北側の待合所については、トイレを備えた小規模施設（現在の待合スペースと同程度）とし、券売機などのJR設備は、北側の待合所に設置する。
- ④ 南側の改札は、駐車場・駐輪場より直接ホームに入場。なお、切符は列車内で購入が可能。





浦安駅整備のイメージ



近隣自治体の事例（既存の駅舎等を撤去した後、町により待合所およびトイレを整備）

大山口駅（大山町）
2019年10月完成、総事業費3,000万円

泊駅（湯梨浜町）
2022年7月完成、総事業費3,370万円



今後のスケジュール（案）

内容	事業主体	2024年 4月	7月	10月	2025年 1月	4月	7月	10月	2026年 1月	
設計業務	町	基本計画 意見募集		設計						
既存施設の撤去	JR			既存施設撤去 (駅舎、ホーム屋根、ホーム待合、トイレ、跨線橋)						
新駅舎の整備	JR		南側改札口の整備		仮駅の整備					券売機等 の移設
	町					北側待合所および トイレの建設				
利用開始									供用予定 1月～	

- 基本計画では、学生、公共交通の利用者、町民から待合所に必要な機能・設備について意見募集を行い、活用しやすい待合所とする。
- 意見募集については、別途、町報、ホームページ、行政放送等で周知する。